

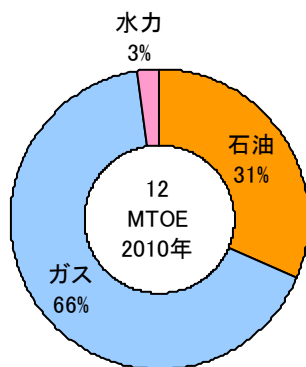
2-15 アゼルバイジャン

1. サマリー

1. エネルギー事情

- (1) 一次エネルギー供給量 (2010年) : 12 百万 TOE (日本の 0.03 倍)
- (2) 一人当たり一次エネルギー供給量 (2010年) : 1.30 TOE (日本の 0.36 倍%)
- (3) エネルギー自給率 (2010年) : 553%
- (4) エネルギー起源 CO₂ 排出量 (2010年) : 24.67 百万 CO₂ 換算 ton (日本の 2.2%)
- (5) 一人当たりエネルギー起源 CO₂ 排出量 (2010年) : 2.73 CO₂ 換算 ton (日本の 30.4%)
- (6) エネルギー源別可採年数 (2011年末) : 原油 20.6 年、天然ガス 85.8 年

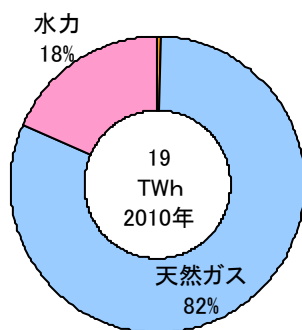
一次エネルギー供給構成 (2010年)



COUNTRY: Azerbaijan

(出所) IEA, Energy Balances of Non-OECD Countries 2012

発電電力量構成 (2010年)



COUNTRY: Azerbaijan

(出所) IEA, Energy Balances of Non-OECD Countries 2012

2. エネルギー政策のポイント

(1) エネルギー政策担当機関

- 産業・エネルギー省が名目上、同国の石油・ガス・化学・電力産業を管轄しているが、産業政策の実権は SOCAR（アゼル国営石油会社）と Azerenerji（アゼル国営電力会社）等の国営会社が有する。SOCAR は従来国営石油会社であったが、国営ガス配給会社 Azerigaz と国営化学会社 Azerkimya を吸収合併し、実質、国営石油・ガス・化学会社となった。SOCAR は新規石油化学産業の創設を目指している。尚、発電・変電・送電部門は、国営電力会社 Azerenerji の独占となっている。
- 代替・再生可能エネルギー庁は 2012 年 6 月 1 日付け大統領令により廃止決定。国営代替・再生可能エネルギー会社が設立されることになった。

(2) 基本政策

- アゼルバイジャンでは 19 世紀中葉より陸上原油を生産しており、陸上原油は既に生産量が減退している。故に、生産拡大のため、積極的に外資誘致策を推進中。
- 膨大な埋蔵量ポテンシャルが期待されるカスピ海沖合の原油および天然ガス資源の開発、同地域で生産された原油・天然ガスの主に欧州向け輸出によって、外貨を獲得する戦略を継続している。
- アゼルバイジャンはエネルギー資源の純輸出国であり、原油および天然ガスの輸出を通じて自国経済の発展を図ることを基本政策に据えている。したがって、原油と天然ガスの輸出先確保と輸送インフラの多様化が重要な課題である。
- 今後、代替・再生可能エネルギーにも注力する予定。

3. 日本とのエネルギー分野における関係

- AIOC コンソーシアムに伊藤忠石油開発が 4.3%、Inpex が 11%を出資している。また、Baku-Tbilish-Ceyhan (BTC)原油パイプライン・運営コンソーシアムに対しても伊藤忠石油開発が 3.4%、Inpex が 2.5%を出資している。
- アゼルバイジャン領海カスピ海 ACG 原油は 2007 年に初めて日本に輸入された。但し、日本までの輸送費が高いため、2008 年度は輸入なし。2009 年に輸入再開されたが、その後、日本に入荷していない。

2. 主要エネルギー指標

(2010年)

(1)	一次エネルギー供給量	12	百万 TOE
(2)	一人当たり一次エネルギー供給量	1.31	TOE/人
(3)	GDP 当たり一次エネルギー供給量	0.42	TOE/千\$
(4)	エネルギー自給率	553	%
(5)	エネルギー起源 CO ₂ 排出量	24.67	百万 CO ₂ 換算 ton
(6)	一人当たりエネルギー起源 CO ₂ 排出量	2.73	CO ₂ 換算 ton/人
(7)	一次エネルギー供給構成	石炭	0.0 %
		石油	31 %
		ガス	66 %
		原子力	0.0 %
		その他	3 %
(8)	エネルギーの輸入依存度	-453	%
(9)	石油の輸入依存度	-1277	%
(10)	輸入原油の中東依存度	0	%
(11)	原油輸入先	第1位	—
		第2位	—
		第3位	—

(出所) (1)～(4) および (7)～(9) は IEA, Energy Balances of Non-OECD Countries 2012 Edition、
 (5)～(6) は IEA, CO₂ Emissions from Fuel Combustion, 2012、
 (10)～(11) は Blackwell, World Oil Trade: An Annual Analysis and Statistical Review of
 International Oil Movements, September 2011.